

小山田遺跡第9次調査 (小山田古墳)

現地説明会資料

2017年8月26日
奈良県立橿原考古学研究所



はじめに

小山田遺跡（古墳）は、高市郡明日香村大字川原に所在します。平成26年度に実施した県立明日香養護学校教室棟改築事業にともなう発掘調査で、飛鳥時代の大規模な掘り割りを検出しました（第5次調査）。この成果を受け、小山田遺跡（古墳）の詳細を明らかにすることを目的に、国庫補助事業による範囲確認調査を継続しておこなってきました（第6～8次調査）。

今年度の第9次調査では、横穴式石室の規模と構造の確認を目的に、発掘調査をおこないました。

発掘調査の成果

発掘調査は、県立明日香養護学校の敷地内に2つの調査区（北調査区・南調査区）を設けておこないました。

1. 北調査区

北調査区では、横穴式石室にかかわる遺構を検出できませんでした。

2. 南調査区

南調査区では、横穴式石室にかかわる遺構を検出しました。検出した遺構は、横穴式石室羨道の石材を抜き取った際の穴（基底石抜き取り穴）と石材を据え付けた際の穴（基底石据え付け穴）、石室内の排水溝です。

羨道基底石抜き取り穴 羨道基底石の抜き取り穴は、東側4基、西側4基の計8基を検出しました。抜き取り穴の規模は、南北長0.4～2.6m、東西幅0.4～2.4m、深さ0.2～0.4mを測ります。抜き取り穴の埋土には、石英閃緑岩片のほか、室生安山岩片や結晶片岩片が含まれています。西側南端の抜き取り穴では、石を割る際に彫られた矢穴がある石材1点を確認しました。矢穴の規模と形状から、江戸時代後半頃のものと考えられます。

羨道基底石据え付け穴 羨道基底石の据え付け穴は、東側1基、西側1基の計2基を検出しました。いずれも、南側2石分の基底石の据え付けにともなうものとみられます。東側の据え付け穴

は、南北長約4.6m、東西幅約2.0mを測ります。西側の据え付け穴は、古墳築造にともなう盛土に覆われているため、南北長は不明ですが、東西幅は約2.1mを測ります。

石室内排水溝 石室内排水溝は、羨道基底石抜き取り穴の間に位置します。その規模は、検出長約10.5m、内法約0.2m、深さ約0.3mを測ります。南端の羨道基底石抜き取り穴の間で、南東方向へ屈曲します。石室内排水溝の構築方法をみると、南側では掘方底面から石材を積みますが、北側では掘方に置き土をしてから石材を積みます。

羨道の規模 全体の位置関係を踏まえると、南端の基底石抜き取り穴の位置が、横穴式石室の入り口である羨門にあたると判断できます。その場合、検出した横穴式石室羨道の長さは、8.7m以上となります。

まとめ

今回の調査では、横穴式石室羨道基底石の抜き取り穴の規模と構造が明らかとなりました。このことから、小山田古墳の横穴式石室が、巨石を用いた大型横穴式石室であった可能性が高まりました。また、横穴式石室羨門の位置が明らかとなったことは、小山田古墳の石室の位置および墳丘範囲を考える上で重要です。さらに、横穴式石室の石材が抜き取られた時期の一端を把握することもできました。

北調査区の状況からは、もともと横穴式石室が北調査区までおよんでいなかったか、あるいはすでに失われたか、ふたつの可能性が考えられます。校舎下における横穴式石室にかかわる遺構の確認は、将来の大きな課題といえます。

小山田古墳については、墳丘範囲の確定や前庭部などの付帯施設の確認といった課題が残されています。これらの課題を明らかにするために、今後も発掘調査を継続しておこなう必要があります。また、すでにほぼ削平されている墳丘の上部構造についても、発掘調査成果や同時期の古墳を参考に、今後検討を進める予定です。



イワミン

奈良県立橿原考古学研究所

マスコットキャラクター

©TMK-ai